第３学年　社会　公民的分野　【災害安全】　　　　　　　　　場所　３年Ｄ組教室

より良い安全社会を目指して「持続可能な社会の形成」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導者　教諭　松下　知敬

１　指導のねらい

本学習を通して、学習内容を学校、家庭、地域社会において他者や社会の安全確保に生かすことをねらいとしている。特に、持続可能な社会、将来の世代の幸福と現在の世代の幸福とを両立できる社会の形成のために、現在の解決すべき課題を見いだし、意欲的に探求していく態度を育む。

【学びに向かう力、人間性等】

また、持続可能な社会を形成するために解決すべき社会における災害安全に関する課題に対して、対立と合意、効率と公正などの観点から解決策を考察させる。考察に当たっては、適切な資料を収集し、的確に読み取り、科学的な探求の過程などを基礎にレポートの作成を行うとともに、伝える技能を育む。

【知識及び技能・思考力、判断力、表現力等】

２ 学習指導要領との関連

社会〔公民的分野〕２　内容　Ｄ　私たちと国際社会の諸課題　（２）「より良い社会を目指して」

３　安全に関する視点

本学習の中心となるのは、生徒が主体的に社会生活における災害安全に関する課題を見付け出し、解決

の取組を考え、さらに、持続可能な社会の実現に向けて発信をしていくことである。このことは、本校が

安全教育で目指す、「学校、家庭、地域社会において他者や社会の安全に貢献できる生徒の育成～中学生による主体的な安全文化の啓発と地域の安全文化の構築を目指して～」に直接結び付いていく。これまでの様々な安全に関する学習が本単元の学習で活用されることを期待している。

４ 関連する教科等の内容

　　中学校　社会　地理的分野　「自然災害と防災への取組」

　　中学校　理科　第２分野　　「自然の恵みと火山災害・地震災害」

　　　　　　　　　　　　　　　「自然の恵みと気象災害」

　　　　　　　　　　　　　　　「地域の自然災害」

　　中学校　保健体育　保健分野「自然災害による傷害」

　　中学校　特別の教科　道徳　Ｂ「思いやり、感謝」　Ｃ「国際理解、国際貢献」　Ｄ「生命の尊さ」

５ 指導計画（５時間）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | 学習内容 | 評価規準 |
| １ | 【テーマの設定】  ・持続可能な社会について  ・災害安全に関して、持続可能な社会及び社会参画、社会貢献を基本にテーマを設定  ・資料の収集の計画 | これまでの安全学習（防災ノート等の資料）を活用することができる。身の回りで起こった災害や最近のニュース等を基にテーマを考えることができる。 |
| ２  ３ | 【資料の収集活用とレポートの作成】  ・収集した資料の読み取り  ・資料の読み取りと考察  ・レポート作成分担と作成 | 適切な資料を収集しインターネット、文献などから必要な情報を取り出すことができる。レポート作成に向けた活動（インタビューやアンケート等）を具体的に考えることができる。 |
| ４  【本時】 | 【一次発表とレポート修正】  ・レポートの構想や進捗に関する情報交換  ・他班等からの修正意見等の収集  ・レポート修正計画 | レポートの構想や進捗に関する内容を分かりやすく説明できる。他班等からの意見を受け止めて対立と合意、効率と公正などの観点からレポート修正を行うことができる。 |
| ５ | 【レポートの完成と発表】  ・他班等からの意見集約  ・意見を反映させたレポートの完成  ・レポートの発表 | 資料、意見などを有効に活用し、科学的根拠に基づいた実現可能な取組をレポートすることがきる。持続可能な社会の実現に向けた取組を提案できている。 |

６　本時の展開

1. ねらい

　　中学校社会、理科等における、自然災害や保健体育における災害による傷害等の学習を基礎とした見方・考え方を働かせながらグループが設定した防災・安全に関する課題に対して、他者（生徒）や授業参画者（公開授業参観者）から意見を収集し、話し合い活動を通してレポートを修正し、完成度を高めることができる。

（２）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動・学習内容 | 支援・留意点　　◎評価 |
| 導  入 | ・あいさつ  ・各班のレポートのテーマの発表  ・本時のねらいと授業展開の確認 | ○あらかじめ、各班のテーマを発表する生徒を決めさせておく。  ○テーマとテーマ設定の理由を発表させる。  〔テーマ例〕  ・大雨等による多摩川の氾濫に対する対策と課題  ・避難所運営に関する課題と問題  ・首都直下地震への対策 |
| 展  開 | ●生徒間の発表  ・２班が１組になり、順にレポートを発  表し合う。  ・レポート発表後には質疑応答を行う。  ●発表の仕方について確認を行う。  ●参観者に対する発表  ・各班で参観者に声掛けをし、発表に参  加してもらう。  ・レポート発表を行う。  ・参観者と質疑応答を行う。 | 他者や授業参観者からレポートに対する意見を聞いて、レポートの完成度をさらに高めよう  ○発表者、発表補助者、記録者等の役割をあらかじめ決めさせておく。  ◎課題の解決について、実現可能な取組を持続可能な社会の形成の視点で、聞き手が分かりやすい発表を行うことができる。  ○生徒間の発表の問題点をできる範囲で修正する。  ○各班ごとに参観者に声掛けを行う。  ○各班が３名程度の聞き手を集める。  ◎発表の課題の解決について、実現可能な取組を持続可能な社会の形成の視点で、聞き手が分かりやすい発表を行うことができる。 |
| ま  と  め | ・他の班の生徒や参観者からの意見を基に話し合い、修正案を具体的に決める。 | ◎他班等からの意見を受け止めて対立と合意、効率と公正などの観点からレポート修正を行うことができる。 |

（３）期待する生徒の反応

｢何気なく生活している地域だったけれど、多摩川の氾濫の危険について詳しく知り、対策について真剣に考えなければいけないと強く感じた。｣、｢台風の時の避難所運営がうまくいっていなかったから、何とかできることを考えたい。｣